

京都府立海洋高等学校 海洋工学科 海洋技術コース

①目的：地域を支える若い力で新たな価値を創造



ウニ駆除の様子

2008（平成 20）年に宮津市漁業協同組合溝尻支所の依頼で阿蘇海のアサリを捕食するヒトデや 2011（平成 23）年宮津湾で夏のトリガイ・冬のナマコの桁（けた）曳網漁で混獲されるヒトデ、2013（平成 25）年に京都府漁業協同組合養老支所の依頼でアワビ・サザエの稚貝放流後にそれらを捕食し磯焼けの原因となるウニの駆除の取り組みをはじめ、低利用資源（混獲されたヒトデ、駆除したウニ）を有効活用するために堆肥を製造し、ヒトデ及びウニのリサイクルに取り組んでいます。

②取組内容：プロジェクト

当初駆除したヒトデを堆肥に活用する方法がわからず、畑に混ぜ込むだけで、試行錯誤しながら堆肥化する試験を行いましたが、堆肥はうまくできませんでした。堆肥化の方法を学ぶため京都府立峰山高校弥栄分校（現京都府立清新高校）を訪問し、段ボール箱で堆肥づくりを開始しました。2010（平成 22）年ヒトデの堆肥舎を設計、施工し大量の堆肥づくりを開始しました。2013（平成 25）年養老地区でウニ駆除を開始し、右写真のように大量の堆肥を製造に取り組みました。

2024（令和 6）年に丹後半島の近隣海域 3 カ所（養老、網野、蒲入）でウニ駆除を実践し、堆肥製造及び学校祭やイベント等で販売を行っています。

私たちは毎年、隣接する宮津市立栗田幼稚園児と一緒にこの堆肥を使ってジャガイモの栽培を続けています。また、今年（2024：令和 6）度は、地元の「しょうが」農家さんからの依頼を受け、「しょうが」の栽培に本校の堆肥を試用し、新たな付加価値を見出していこうという取組が行われています。なお、堆肥の製造及び販売については、京都府の認可も取得しています。



堆肥製造の様子



幼稚園児と一緒にジャガイモ栽培

③結果：今後の展望



養老地区ウニ駆除後の記念撮影

これまで続けてきた低利用資源を有効に利用する活動をこれからも継続していくとともに、製造された堆肥をこれまで以上に地元の方々に使用していただくことを目指します。そしてこの活動を続けていくことで、人・海・農の好循環が发展し、海洋環境の改善につながることを目指します。